



北小の伝統行事「筆供養」

～感謝の気持ちを込めて～



16日、TV放送で「筆供養」を行いました。北小の卒業生や保護者の方は、周知の行事のことと思いますが、あらためて説明します。筆供養とは画家や書家が使い古した筆を「筆塚」に納めて供養し、感謝の気持ち表す行事のことです。北小の場合には、大山忠作先生のご寄付で昭和48年に作られた「筆塚」に短くなった鉛筆を納めることを通して、学用品に対する感謝の心を育むと同時に、母校を愛する大山先生の深い心情に触れることを目的としています。

今年も放送での実施となりましたが、集会委員会が会のすべてを取り仕切ってくれました。大山先生と筆供養についての説明をしたり、大山先生に関するクイズも出したりと工夫を凝らした内容でした。そして、最後に各学級の代表が、学級ごとに集めた短くなった鉛筆を集会委員会代表に渡し、「納筆」を託しました。



私からは、筆供養を通して鉛筆だけでなく、自分の身の回りの「人」「もの」「こと」への感謝の心（ありがとうの心）を大事にしているという話をしました。筆供養は北小ならではの伝統行事。これからも大切に続けていかなければと思いました。

「大山忠作先生クイズ」の問題から（ご家庭でも楽しんでください）

- ①大山先生は二本松出身ですが、生まれた家はどこにあったでしょう。
[根崎／郭内／表／竹田／若宮]
 - ②小学校時代の大山忠作先生はどんな性格だったでしょう。[明るい／活発／おとなしい]
 - ③大山忠作美術館には、先生の作品がだいたい何点ぐらいあるでしょう。[50／130／170]
- 答えは、裏面の大山先生の紹介文や大山忠作美術館 HP から見つけてください。

北小の先生方の取組（研修）

が表彰されました

～自ら学び続ける児童の育成～

先日二本松市教育委員会から教職員実践論文表彰において「優秀賞」をいただきました。今年度北小では「自ら学び続ける児童の育成～子どもの問題解決的な思考を促す授業の創造～」をテーマに授業研究、授業改善に取り組んできました。今回の表彰を励みとして、今後も継続実践していきたいと考えています。



※ 先日お伝えした「タイムカプセル」ですが、当時の卒業生代表が引き取りに来て下さいました。迅速な対応ありがとうございました。

大山 忠作先生（オオヤマ チュウサク） 大正 11 年 5 月 5 日～平成 21 年 2 月 19 日



■略歴・解説■（二本松市教育委員会 IT 美術館より）

染物業を営む大山豊治・きくの次男、2 男 4 女の第 3 子として二本松根崎に生まれる。幼児期を安達太良山と阿武隈川に囲まれた自然環境の中で過ごし、二本松第二尋常高等小学校卒業後に上京、東京美術学校（現・東京芸術大学）で日本画を学ぶ。第 2 次世界大戦の戦況悪化により、学徒出陣のため繰り上げ卒業となり戦地へ向かう。

終戦を迎え戦地から復員すると、東京都美術館で開催中だった第 1 回日展を見て感動し、制作意欲を掻き立てられ、第 2 回日展では「〇先生」を初出品し初入選。以後、日本画研究団体「一采社」に参加、山口蓬春に師事し、日展を主な舞台として、描きたい物を描くという姿勢で、人物から宗教、花鳥、風景画まで幅広い題材の作品を発表し続ける。代表的な業績としては、法隆寺金堂壁画再現模写への参加、日本芸術院賞受賞作「五百羅漢」、成田山新勝寺光輪閣襖絵「日月春秋」28 面及び「杉」「松」「竹」22 面、同じく聖徳太子堂壁画 6 面「白鷺」「蓮」「桜」「牡丹」「菊」「楓」の制作などが挙げられ、日展においても、理事長、さらには会長として日本最大の芸術団体の舵取りを行い、わが国の芸術文化の振興・発展に尽力したことが特筆される。平成 18 年には、写生を踏まえた平明で骨太な描写、さらにその画技と団体への貢献により、芸術文化の向上に寄与したことが認められ、文化勲章を受章した。